

① 国語と教育

■子どもたちをすぐれた日本語の担い手に

●実践レポート

- ・物語文「わらくつの中の神様」(小学校5年)実践報告
- ・日本語の指導(文法指導)の実践報告
- ・文学作品の読みとりのポイント
- その他 各県からのレポート報告

② 作文と教育

■子どもの内面に寄り添い、生活を見つめた真実の表現をどう書き綴るか。またそれらを読み合い、共感・共有する学級をどう創り出すか

○基調報告 佐藤 修二(福島)

①実践レポート (福島:小学校)

②実践レポート (山形:中学校)

*実践報告を通して、改めて「生活綴方とは何か」、教師の学びや教育観の本質を問う。

(1)子どもの内面に寄り添い、生活を見つめた真実の表現をどう引き出すか。

(2)困難のなかに生きる子どもの表現を「こころの叫び」として受け止め、どう支え励ますか。

(3)子どものありのままを受け止め、学校・教室に居場所をどう創り出すか。

③ 外国語教育

■自立して学習できる子どもに育てる

●分科会の概要

学習での「自立」は3つ。①音読での自立:範読なしに、つづり字と発音の関係から自分で音読ができる。②文法での自立:文の組立をもとに、必要ならば辞書を引き、文を頭から理解できる。③談話での自立:段落・話のつくりを意識し、段落を単位に、書き手・話し手の意図を正確に理解する。系統的な教材と物事を学んでいく認識過程を考えて創った授業は、これら3つの自立を夢物語ではないものにします。

■実践レポート

○中学3年 読み取り BOY, by Roald Dahl から2編

○読み取りを支える発音・文法の授業:「音読での自立」を実現させる日本語の音声を基にした英語の発音と「文法での自立」を実現させる授業

④ 社会科と教育

■分科会のテーマ

(1) 震災・東電福島原発事故から6年

(2) 地域の掘り起こしと授業実践

●分科会の内容

① 震災・東電福島原発事故から6年が経過した。この間、各県ではどのような変化があったのか、また変化しなかったことはどのようなことなのか。それぞれの地域での実情を確認しあい、課題と今後の方向性を探ることとする。

② 地域にある授業づくりの素材をどうとりあげていくか。ベテランから若手までそれぞれの視点の違いを大切に授業づくりを学びあう。分科会の蓄積もふまえ、小・中・高の実践、あるいはまた、地域の学習会活動の実際を出し合う。

⑤ 算数・数学と教育

■子どもとつくり数学の世界!

参加者のみなさんと有意義な研究討議ができるように、小~高から実践レポートを準備してお待ちしております。授業の中で生徒が生き生きとできる数学にするにはどうしたらよいか研究しあいたいと思います。

●実践レポート

○小学校 特別支援学級での算数指導 木下 彰(岩手)

○高校 三角関数の指導~教具クルクルを使った授業実践~ 宮本次郎(岩手)

⑥ 理科と教育

■やさしく本質的な実験・観察を生かした理科教育の創造

1 「福島の現状と原発問題」 佐原 成典(福島)

2 「中学3年イオンの学習」 佐藤 雄一(福島・梁川中)

3 実験・教材紹介(主に若い方向けの講座です)

(1)フタの肺のシリコン模型 (2)簡易マグデブルグ半球

(3)分子モデル (4)ものづくり

4 参加者からのレポート発表・実験の紹介など

⑦ 音楽と教育

■今こそ、音楽を生きる力、喜びに

●保育・授業の実践を聴く(日々の実践の話から学ぶ)

基調報告の後、参加者の実践を聴き、子ども達の喜びや輝き、音楽が生きる力につながった事実を確かめ合います。また、その時どんな教材曲を選び、どう働きかけたかなどを学び合います。

●みんなで歌う(参加者のピアノでたくさんの教材曲を歌います。)

リズム運動(参加者のピアノで子どもが喜び育つリズム運動を踊り学びます。)

●レポート発表予定

「小学校3・4年の実践」 高橋 淑子(基調報告・岩手)

「保育の実践」 日食 正昭(宮城)

その他、宮城・山形・青森を中心とした参加者のレポートや実践テープを聴きます。

⑧ 美術と教育

■子どもの絵や作品を持ち寄ろう! 語ろう!

子どもの絵や作品の見方、指導の仕方について、作品をもとにしながら話します。

一人で数百人の生徒を受け持っている過酷な実態や、複数校を掛け持ちでやられている実態などについても出し合い、一人で悩みや不安を抱え込まないでやっていくにはどうすれば良いかなどについても話し合います。

* 子どもの絵や作品を持ち参しなくても参加できます。遠慮なくご参加ください。

⑨ 技術と教育

■小中高を一貫した技術教育としての教材づくり・授業づくり

○プログラミング学習をどうすすめるか?

○製図学習から始めるものづくり

○栽培学習で取り上げる作物は何かがいい?

* それぞれの実践をもとに、みんなで討論しましょう!

⑩ 身体と教育

■子ども・青年のからだところの現状を探り、身体と運動文化の主人公に育てる実践の創造 ~子どもたちとともに希望ある未来を創造していくために~

子どもたちは、「平均」という名の下で、学習でも、体力づくりでも競争にさらされています。東日本大震災から立ち直ろうとあえぐ被災地においても、その動きは変わりません。目の前の子どもに寄り添い、関わり、見守っていく実践が本分科会の基調です。子どもに少しでも成長の跡が見られたとき、それが私たちの喜びであり、未来を切り拓いていく原動力になるのです。子どもの姿から、子どもの今、私たちの今を語り合い、本当に大切なものを探っていきましょう。

- ・震災を経た子どもからのからだところの現状と課題
- ・確かな身体の認識を育む「からだの学習」
- ・子どものからだところを耕す体育実践の創造
- ・多様な子どもたちの健康課題 について

●実践報告

○「Aさんと過ごした1年間」

~「困った子」は「困っている子」を実感した日々~ 江島隆二(宮城・小学校)

○「眠っているのは死んでいるのと同じかな?」

~睡眠の授業づくり~ 鎌田克信(宮城・小学校)

⑪ 生活指導と教育

■「子どもたちが自分と他者との基本的信頼関係を取り戻し、共に社会を形成していく力」をつける一年間の見通しを持とう!

- ・実践レポートをもとにして多くのことを学び合います。
- ・担任をして「困っていること」や「悩み」も出し合って、共感力を育む指導の進め方を学び合います。

●実践レポート

「学級づくり・・・一年間の見通し」 伊藤 弥(福島)

「子どもたちと共に学びをつくる授業」 鈴木 直(福島)

⑬ 幼年と教育

■保育所保育指針改訂と豊かな保育実践への取り組み~震災後の保育も語り合いながら~

◆13日(土) 16:10~18:00 分科会①

○基礎講座

保育所保育指針改訂をどう読みとき、保育現場の実践を進めるか。(講師)佐野法子氏

○各地域の実践と取り組み パート1

あなたの保育園に仲間として気になる子、どうしてる?

◆14日(日) 8:30~10:50 分科会②

○各地域の実践と取り組み パート2

豊かな実践の展開にかかせない、毎日の保育の振り返りどうしてる?

⑭ 障がいのある子と教育

■子どもたちに生きる力を一子ども、教師、家庭をつなぐ実践を交流し合おう~ 障害のある子どもを取り巻く地域や学校、家庭の現状は~

○障害のある子の支援に関する東北各県の現状を出し合い、様々な課題がある中で「私たちができること」、「すべきこと」について話し合しましょう。

○話し合いの予定

- ・各種学校や施設における実践
- ・障害のある子の就学、就労の支援
- ・通常学級における発達障害のある子への支援
- ・本集会で取り上げたいこと

○入門講座

- ・通級指導教室はどんなところ?どんな指導・支援をしているの?

⑮ 演劇と教育

■子どものこころと身体を育む表現活動・文化活動とは

(1) 自己表現が苦手な子、周囲と上手にコミュニケーションがとれない子など、子どもたちの実態と原因を明らかにし、それをどう乗り越えるか。

(2) 子どもや子どもを取りまく文化的な状況を明らかにし、豊かな表現活動・文化活動をどうつくるか。

●分科会の内容・実践レポートなど

○学習発表会、文化祭など行事をどうつくりあげるか (福島 小・中)

○地域の中の文化活動の取り組み (福島) ほか

* 参加者からのレポートも大歓迎です。(文化祭や学習発表会での実践など)

⑰ 学校と教育

■子どもに夢と希望を育む学校づくりを、父母と地域と共に

学校現場、地域、市民運動など、様々な場面で活動している参加者が、多様な視点から「教育」を問い直します。

●分科会の内容・実践レポートなど

○学校現場や地域社会で今何が起きているか。

- ・原発事故
- ・子どもの貧困
- ・「発達障害」を抱える子どもたち

○教育とは・・・学力とは・・・を原点から問い直す。

(仮題)「子どもの学びへの同伴あるいは支援について、ふと浮かんだ一雑念考察」 宮城子どもを守る会 齋藤敬一

⑱ 国民教育運動

■3.11東日本大震災から7年目。一地域の子育て、教育・文化協同の取り組みについて-

●分科会の概要

①東北各県の子どもと教育にかかわる状況の交流

②本集会に向けての話し合い

●レポート

①宮城における放射能廃棄物の一斉焼却問題

②高校入学者選抜制度について

⑲ 学生生活と科教育・育総合

■地域に根ざし、子どもの発達を保障する生活科・総合学習はどうあればよいか

●生活科入門講座

◇ 子どもたちがみるみるかわります。

(1) 「たんけん」の授業 13日 16:10 ホテル玄関出発

(2) 「みつけた」実践 17:20 ホテル分科会室 吉田智子(岩手)

●レポートから学ぼう 14日 8:30~10:30

(1)「放射線とむきあう生活科」 1年 佐藤 方信(福島)

(2)「地域のよさをみつめて」 3・4年総合 佐藤 方信(福島)

(3)「総合学習から何を学んだか~城内小学校最後の1年」 3・4年 山本 公恵(岩手)

⑳ 不登校と教職

■震災復興と子ども・若者~7年目を迎えて~

6年間の間に、子ども・若者を取り巻く状況はどうなっているだろうか。

●分科会の内容

○ワークショップ「小6のAさんの不登校」を事例にし、考え合う

~担任、学校だけで抱え込まないために~

○ひきこもりの若者のための「居場所」の価値をどう認識し、拡充するか

* 事例をもとにして参加者で考え合います。

* スクールソーシャルワーカー(SSW)や家庭相談員も参加しますので、身近で抱えている問題を解決するための方向性などが見えてきます。ぜひご参加ください。

掲示板 一事務局より

【1】 今回の「中間集会」では、以下の3つの分科会は行いません：
○「家庭科と教育」 ○「教師の文学活動」 ○「高校生と教育」

【2】 どの分科会も、この2日間の中に、「夏の本集会」(8月10~13日)では
● 「自分たちの分科会をどのように充実させるか(レポートなどもきめて)」
● またそのためにどのような準備や段取りが必要かなどについて、話し合いをお願いします。

【3】 「新しい学習指導要領」が内包しているさまざまな問題点について、研究者から指摘されています。それぞれの教科や分野においてどうなのか。「夏の本集会」においても十分に討議ができますよう、ご準備をお願いいたします。

